

## 特集

## 本が好きな私からあなたへ

— おすすめの本10冊 —

皆さんは年末年始、どのような本を読まれましたか？約2年半ぶりの「おすすめの本」特集。高校生から人生のベテランまで、けやきに関わりのある方がおすすめの本を紹介します。読んでみたいな、と思う本が1冊でもあれば幸いです。

## 下山の哲学 登るために下る

竹内洋岳著 川口穰構成  
太郎次郎社エディタス 2020年

自粛生活の期間に活動的な友人に誘われて山登りを始めました。とはいっても近郊の低山（時々丘のようなもの）にハイキング気分で登るものです。運動習慣がほぼなく、体力のなさを実感しながらようやく頂上に着いた時は、やはり満足感のようなものがありました。いや、でも待てよ、今からまだ下りの行程があるやん、下り、しんど（毎回これ）。

その様な経験をしているときに出会ったのがこの本です。著者は、プロの登山家で8,000m級14座すべてを完全登頂

した唯一の日本人。1995年から2012年までの17年間でこの偉業を達成しています。著者は、登頂してもできなくても何とか無事に下山することが何よりも大切と語っています。下山するからこそ次の挑戦ができるのだと。登山はやはり頂上をめざすことにスポットが当たりがちですが、この本は登頂に至らなかった挑戦も含め、14座すべての下山の行程が具体的に書かれています。

8,000mからの下山は想像を絶するものです。あらゆる生物が存在しない世界で、天候や体力に左右され、行動や判断の遅れが命に直結します。臨場感があり、読んでいるだけで呼吸が速くなります。

山登りを始める以前の自分なら手に取ることもなかった本だと思います。新しい経験が読書の幅も広げてくれました。

山は1座、2座と数えることも知りました。山の上には神様がお座りになっているからとか。竹内さんは神様を見られたのでしょうか。

(左京区 A)

## 桜の森の満開の下

坂口安吾著 しきみ絵 立東舎 2019年

桜と言えば、満開の淡い色の美しさ、賑やかなお花見、1週間程で散ってしまう儚さなどを私は想像します。ところが、この小説では桜を「怖ろしい」ものとして描いています。そこに私は興味を持ちました。

とある山賊がさらってきた女はとても美しかったのですが、桜の森の満開の下を通る時と似た不安をもたらす女でした。女はワガママで、それに振り回される山賊。その女の言動は徐々に異様さを増していき、猟奇的になっていきます。

まさかこんなグロテスクな展開になるとは思っていなかったのですが、驚きましたが、気持ち悪さをこらえ、読み進めました。女の正体は？山賊はどうなる？

ラストシーンは、桜の森の満開の下です。山賊が怖れていた桜の下で、彼は様々な感情と向き合います。

不思議で、怖くて、桜が印象的で。脳裏に残る作品でした。

私は、この作品を立東舎の乙女の本棚シリーズで読みました。人気イラストレーターと文豪とのコラボで、小説としてはもちろん、画集としても楽しめるオシャレな本です。他の作品もいくつか読みましたが、いろんなイラストレーターさんの味わい深い絵と共に作品を楽しめるので、どんどん読み進めたくくなります。ぜひ、一度、ご覧になって下さい。(左京区 田嶋)

## NHK 国際放送が選んだ日本の名作

1日10分のしあわせ

朝井リョウ・石田衣良ほか著 双葉文庫 2019年

日本では名だたる現代作家たちが紡ぐ、NHK 国際ラジオ番組で実際に朗読された作品を集めた、珠玉の短編集です。

「Reading Japan 朗読で楽しむ日本」と題して、NHK WORLD-JAPAN の国際ラジオ番組内で、世界 17 言語に翻訳された作品が、毎月全世界に放送されています。

母と娘が鍋料理に使う鍋をめぐる展開していくハートフルストーリー、口うるさい上司の仕事が几帳面すぎるその理由と歴史、家族思いの父親の独白から始まる不可思議な展開かと思いきや実は…、など、バラエティー豊かな作品群と構成です。

私は初め、朗読に適した作品が集められた本だと思って読み進めました。確かにさらさらと流れるような言葉遣いや、音声にしても聞きやすい言い回しになっていて、目で文章を追う黙読でも読みやすいと思いました。

しかしそれだけではなく、異国の人々が、この短編小説をラジオで「聞く」ことによって今の日本の日常や考え方を知ってくれるのだと思うと、嬉しいような不思議なような感覚になりました。

黙読で読むのと朗読などで聞くのと、作品に触れるアプローチが違うと作品の印象も大きく変わります。

昨今では耳で聞く読書である「オーディオブック」も増えてきていますし、タイトルにもあるように「10分程度」の時間で、声に出して読んでみることをぜひおすすめしたいです。(会員 中原)

## 旅する練習

乗代雄介著 講談社 2021年

小説家の叔父さんと、中学入学を間近に控えた姪のサッカー少女亜美ちゃんの徒歩旅行のお話、ロードノベルです。

旅のスタートは小説家の叔父さんよろしく千葉県手賀沼。白樺派ゆかりの地です。ゴールはサッカー少女亜美ちゃんよろしく茨城県鹿嶋市。鹿島アントラーズの本拠地です。亜美ちゃんが鹿島の合宿所の本を無断で借りてきてしまったので、二人で5日間かけて利根川沿いを歩いて本を返しに行く旅です。

二人の旅のルールは、叔父さんは風景を描写する練習、亜美ちゃんはその傍らでリフティングの練習。練習の旅です。途中で同じく鹿島を目指して歩く女子大生も加わりません。年齢も性格も違う3人の味わいある忘れられない旅となります。

叔父さんは鳥に詳しく、鳥が効果的に使われています。亜美ちゃんの澆刺さもすごくいい。

最後のどんでん返しには驚愕し理不尽さを覚えました。が、読後は意外と爽やかでした。 (会員 ぼう)

## コモンの「自治」論

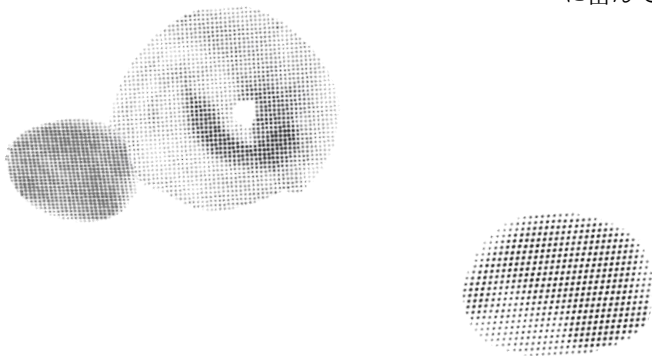
齋藤幸平・松本卓也編 集英社 2023年

この本の帯には、「戦争、インフレ、気候変動。崖っぷちの民主主義と資本主義。複合危機を乗り越えるには壊れたコモンを耕し、自治を磨け。」とあります。コモンとは、水やエネルギーや食、教育や医療など、あらゆる人が生きていくのに必要とされる共有財を意味します。この本のねらいは次のようなものです。

今日、これらの共有財は大企業等の利益獲得のために民営化、私物化され、人々の生存が脅かされているが、これらの共有財は、本来多くの人が積極的に関与しながら共同で管理されるべきものです。コモンを再生するために「自治」の力をどのようにして取り戻していくか、理論とともに、実践例を通して具体的に考えていこう、とするものです。

この本は、経済学、政治学、社会学、医学などの分野から、7人の研究者が執筆しています。大学における「自治」の危機、民営化の問題点と杉並区長としての実践、精神医療における「自治」の経験、などがテーマです。

この本の問題意識は、齋藤幸平さん(「人新世の『資本論』」の著者)が明確に示しています。コスパ思考が強まるなかで、私的な利益が優先され、公共的な関心が薄れていくという形で資本による「魂の包摂」が進んでいくという警鐘や、政治の力を使って上から制度を変えれば社会は変わるという「政治主義」では、民主主義や「自治」のために必要な私たちの能力は回復しない、という指摘など、多くの示唆に富んでいます。 (左京区 はる)



## 華氏 451 度

レイ・ブラッドベリ著 伊藤典夫訳  
ハヤカワ文庫 2014年

本を手にとったきっかけは、そのシンプルな題名に惹かれたからでした。タイトルにある「華氏 451 度」とは、紙が自然発火する温度であり、この本は「本」が禁制品となった近未来の世界で、本を燃やす「ファイアマン」を仕事とする主人公のモンターグの視点から描かれたディストピア的フィクションです。主人公のモンターグは本を燃やすことに快楽を覚えていましたが、ある日の帰り道クラリスという少女と出会ったことで、本に興味を持ち、こっそり自らの家へと本を持って帰ってしまいます。本を読み、そしてその虜となったモンターグでしたが、妻に自分の行いを通報され追い詰められた彼はかつて上司であったベイテューと対峙し…。といったストーリーが展開されていきます。

この本では、人々の思索を記録した媒体である「本」というものが消えたことによって自らを見直し考えることをやめ、安易な娯楽に溺れる人々の姿が描かれます。同様に、現代の社会では、圧倒的な情報のスピードや効率化ゆえに私たちは大切な情報を忘れ、そこにスマホやパソコンなどの安易な娯楽と呼べるものを詰め込んで、自らの思考力や記憶をなくしてしまっているように思えます。そんな時であるからこそ本というものに立ち返ることによって思考する機会を得る。そんな一歩としてこの本をぜひおすすめしたいです。

(下京区 しらかわ)

## ブックオフ大学ぶらぶら学部

武田砂鉄・山下賢二ほか著 夏葉社 2020年

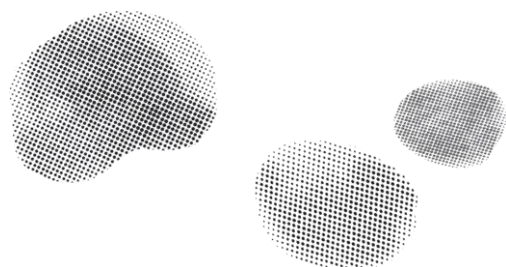
2020年に創業30周年を迎えた「ブックオフ」は、「新古書店」という新しい書店の 카테고리を生み出し、時代とともにその業態を変えてきた。このブックオフに青春を燃やした男たち8人の、熱さと自虐の入り混じった“ものがたり”。

ブックオフについて、本書では「比較的新しく刊行された本の中古を安い値段で売っている店」で、「ザ・売れてる本」と「ザ・売れてた本」といった「ありふれた本」があり、「本のことをよくわかっていない人が、これはたぶんこっぴじじゃないかと並べてみちゃった感じ」が特徴だと書いている。そんな店なのに、彼らが足繁く通うのには訳がある。それは「均一棚」と「宝探しの楽しみ」だ。「100円均一」の棚から、自分の読みたかった本や絶版本を見つけ出したときのことを、著者たちは武勇伝のように語る。そして、そんなことに喜びを感じている自分をちょっと恥じる。

8人の著者がそれぞれ自分とブックオフの思い出を綴るなかで、「せどらー」Z氏による新古書店の解説は、知らないことも多く興味深かった。「せどり」、つまり古書店で安く買った本を別の古書店で高く買い取ってもらうことで差益を出す商売、がブックオフの台頭とヤフオクなどネット販売の普及によって、どのように変化していったか、出版業界全体の流れとともに説明されている。

この本を出版した夏葉社の島田潤一郎氏は、「人生はうまくいかなかったし、たいてい喜びよりも悩みのほうが多かったから、ブックオフに通った」と振り返る。ライター武田砂鉄氏、ホホホ座山下賢二氏など、本を生業とする人たちのいけてない青春に、ほんの少し胸が熱くなる。

(会員 S・A)



## 巴里の空の下オムレツのにおいは流れる

石井好子著 河出文庫 2011年

「今夜はオムレツよ」

本著は、60年前、「暮しの手帖」に連載されていた、シャソン歌手、石井好子さんの外国のおいしい料理に満ちたエッセイ集です。

当時、母が購読していた「暮しの手帖」のこの連載を読み、子供の私は、パリという外国の街や、聞いたこともない美味しそうな料理を思い浮かべ、あこがれ、想像の世界を旅していました。なぜ、この昔のエッセイをまた読んでみようと思ったのか？あるとき、パリもオムレツも良く知っている若い世代の娘が「この本いいね」と言ってきたのです。読み返すと、古くない。料理のおいしい匂いと、くつつ、ぶつぶつおいしい音がする。おいしさが言葉で表現されている。食べる喜びと、その喜びを分かち合う喜びが伝わってくるのです。

子供達が思春期になり、精神的に不安定になったことがありました。それでも、夕ご飯を食べた後に「明日の夕ご飯はなに」と聞くのです。「食べたばかりなのに！」と、面倒に思うこともありましたが、「ああ、明日も食べようと思っているんだ。明日も生きようとしているんだ」と安堵したものです。そんなことも思い出させる本でした。

おいしいものというのは、なにもお金のかかったものではなく、心のこもったもの。食は楽しみであり、生きる活力であり、そして文化、教養であると思います。

この本には、当時産声もあげていなかった編集者と作ったレシピ版や、姉妹版「東京の空の下オムレツのにおいは流れる」(河出文庫)もあります。

「さあ、夕食にしましょうか」 (会員 I)

## あしなが蜂と暮らした夏

甲斐信枝著 中央公論新社 2020年

あしなが蜂と暮らす?!ってどういうこと？

自然を題材にした絵本の作者だから、ひょっとして言葉通りかもしれないと思い手に取りました。

装丁と巻頭には美しいスケッチ画。そして、京都郊外のキャベツ畑で、せぐろあしなが蜂が青むしを狩るのを見たエピソードから始まります。巣を探し当てた農家の納屋での観察、納屋の持ち主の「おかあ」とのあたたかな親交、東京のアパートでの蜂との同居と話は展開していきます。

作者の集中力と好奇心が、素晴らしい絵本を生み出しているのだと思います。蜂と人の共通点への着眼が面白く、好奇心の塊のような作者を羨ましいと思えてきます。

『よく見る』ということは愛情なのでしょう。対象物に対する愛情がよく伝わってきます。私は物を見ているようで実は何も見えていないのかもしれないと自らを省みてしまいました。

また、納屋の持ち主の「おかあ」との交流と別れは胸に迫ってきます。短い期間にもかかわらず深く共鳴するものがあったのは、「自然の摂理を畏れる人」という共通点があったのだと感じました。

学術的な作者の観察眼ですが、文章は抒情的であたたかく、そして読みやすい一冊です。 (会員 山田)

## せいめいのれきし (改訂版)

バージニア・リー・パートン 文・絵 いしいももこ訳  
まなべまこと監修 岩波書店 2015年

『ちいさいおうち』や『いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう』など子どもたちが大好きな絵本の作者バージニア・リー・パートンが、8年の年月をかけ、『地球上に生命が生まれたときから今までのおはなし』を、壮大な5幕の劇として表現した絵本。内容が理解できるのは小学校高学年からだが、1幕6場から登場する恐竜たちに惹かれて幼児も夢中でページをめくる。もちろん、おとなにもしっかり読み応えのある作品である。かつて、1964年にいち早く石井桃子さんによって翻訳されたものを、愛読された方もおられると思う。

パートンがこの本をアメリカで出版したのは1962年。それから50年近く経って最新の科学的成果を踏まえた改訂版がアメリカで2009年に出版された。日本でも国立科学博物館の真鍋真氏が監修した改訂版が、2015年に出版された。特に恐竜に関しては、新たに判明した多くのことが文章に反映されている。

したがって改訂版では、パートンの絵は変わらないが、絵に付された名称や訳文が微妙に変わっている。私は、初版のいしいももこ訳のふっくらとしたあたたかい訳文が好きです。ぜひ、初版本と改訂版の両方を読み比べてみてください。(会員 永井)



## REPORT 第23回

### おとなのための語りを楽しむ会

2024年1月20日

しとしと雨が降る空模様でしたが、20名ほどが集まり、左京図書館上階の会議室で「おとなのための語りを楽しむ会」を開催しました。「京都おはなしを語る会」のメンバー7名と、昨年に引き続き、左京図書館の司書さん1名が、お話を語りました。

日本の昔話が4話、アメリカ・フランス・エチオピアの昔話が各1話、「かさじぞう」のパネルシアターとバラエティに富んだ内容でした。パネルシアターのときは、小さな子どもがお母さんの膝の上で楽しむ様子が見られました。

皆がよく知るお話では、うなずきながら物語を楽しむ参加者がいたり、初めて聞くお話では、予想外の展開に会場に笑いが広がったり。静かな中にも、演者やお話によって会場の雰囲気が変わり、「語り」の奥深さを知ることができました。

すべてのプログラムが終わった後、谷川俊太郎さんの詩「そのあと」の朗読があり、皆で被災地に思いを馳せ、このような会がもてることのありがたさを胸に、散会しました。

#### 【プログラム】

天福地福 (日本の昔話)

ふるやのもり (日本の昔話)

雪女 (日本の昔話)

小さなこげた顔 (アメリカの昔話)

かさじぞう (日本の昔話)

わらいのお茶 (日本の昔話)

ぶっかけろジャネット! (フランスの昔話)

山の上の火 (エチオピアの昔話)

(澤田)

けやきの  
本棚

No.70

#### 小さいときから考えてきたこと

黒柳徹子著 新潮文庫 2004年  
いつもポジティブな「トットちゃん」。子ども時代に体験したことだけではなく、大人になってからの出会い、別れのエピソード

も出てきます。文章がとてもユーモラスで、読んでいると思わず「ふふっ。」と笑ってしまいます。

トットちゃんと友達になったような気持ちになれるすてきな作品です。(小5 梓紗)



## REPORT 2023 年度

### 左京図書館読み聞かせ交流会

毎秋、京都市左京図書館主催・けやき企画協力で開催している「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」は、今回で19回目となります。小学校で読み聞かせの活動に参加している人をはじめ、絵本に関心のある方など、幅広い年齢層から参加がありました。

#### 第1回 絵本の絵を読む—絵本の表現の秘密

講師 中川あゆみさん(名古屋女子大学)

10月6日

「絵本の作り手とは文を書く人、絵を描く人、そして編集者である」。まず中川先生は、編集者がページやサイズの制約の下で、効果的な構成や展開を考えたり、企画したりといかに重要な存在であるかを話されました。

そして、林明子さんが、編集者と共に学び、初めて物語絵本の絵を描いた『はじめてのおつかい』を使って、1ページずつ画面に描き込まれた様々なメッセージを読み解き、表現の秘密を深掘りしていきました。ページをめくる方向や人物の配置・大きさで、物語の状況や登場人物の心理状態・感情を表現する方法などを具体的に説明。台所、表札、俯瞰した町の様子、掲示板等の作者の遊び心がちりばめられた部分を参加者と一緒に見つけていった時は、会場が大いに盛り上がりました。

裏表紙の絵にも作者の意図があると伝えてから、もう一度表紙を見せ「主人公の笑顔はどの場面のものですか？」と先生。冒険達成の笑顔であると気づき、これが絵本を丸

ごと一冊味わうことかと感激しました。

それから、福音館書店の松居直さんが日本人の手による絵本作りを模索し、確立したことを紹介。海外のどんな本を参考にして作り上げたのか、本を比べて説明。現代の絵本作りにもノウハウが引き継がれており、降矢ななさんのデビュー作である『めっきらもっきらどおんどん』を挙げて、制作の経緯や表現の工夫を紹介。

最後に、「子ども達に最高のものを届けるため、作家たちは妥協せず、試行錯誤して作っています。その作品の届け手である大人(読み手)が、表現の秘密を一つでも発見して読み聞かせに役立ててもらえたら嬉しいです」と話されました。

たくさん絵本から表現方法を学び、見方が広がる有意義な時間となりました。(山口)



講演会の様子

#### あしながおじさん

J・ウェブスター作・画 坪井郁美訳 福音館書店 2004年  
陰鬱な毎日をごatineしていた孤児の主人公ジュディー。ある日突然、顔も名前も知らない人からの援助で大学に入ることになります。

ジュディーは、その人を「あしながおじさん」と名付け、日々の様子を知らせるために手紙を書いていきます。

いつも前向きで想像力豊かなジュディーの大学ライフが、ユーモアたっぷりに生き生きと描かれています。読むと元気になれる本です。ぜひ、読んでみて下さい。(中1 いずみん)

第2回 前半 やってみよう！読み聞かせ  
講師 藤田満伊さん（左京図書館司書）

後半 科学絵本・科学読み物ブックトーク  
「秋を彩る葉っぱのふしぎ」  
講師 島崎真紀子さん  
（京都科学読み物研究会会員）

10月13日

第2回は、事前申込に加えた当日参加もあり、25名余りの参加者となりました。

前半は「やってみよう！読み聞かせ」と題して、絵本の読み聞かせ初心者のための解説が藤田司書からありました。

若手の司書さんらしいさわやかな印象とともに、講演のために入念な準備をされたことが伝わる、わかりやすい解説でした。

読み聞かせには、人と人のふれあいが生まれ絵本の中の世界も現実の世界も広がる相乗効果があるというお話は、初心者も熟達者も励まされる内容でした。

また、見開きに絵が一つある方が理想的、それから、読み手が読む本を楽しみと思えることが大切など、具体的な絵本の選び方についてのアドバイスもありました。

後半は、毎年恒例となった、「京都科学読み物研究会」の島崎さんによる科学絵本・科学読み物ブックトークでした。今回のテーマは、「秋を彩る葉っぱのふしぎ」。

<落ち葉と紅葉>、<なぜ、どのように紅葉するのだろう>、<遊びや実験の手引きに>、<木の種類ごとに紅葉について読んでみる>、<イチョウの本>、<背景の紅葉が印象的な絵本>といったテーマに分けて、絵本や図鑑を次々と紹介してくださいました。

道端の落ち葉を拾って、図鑑の絵と見比べて調べるのできる手軽さと楽しさ、そして親子でも一人でも楽しめ

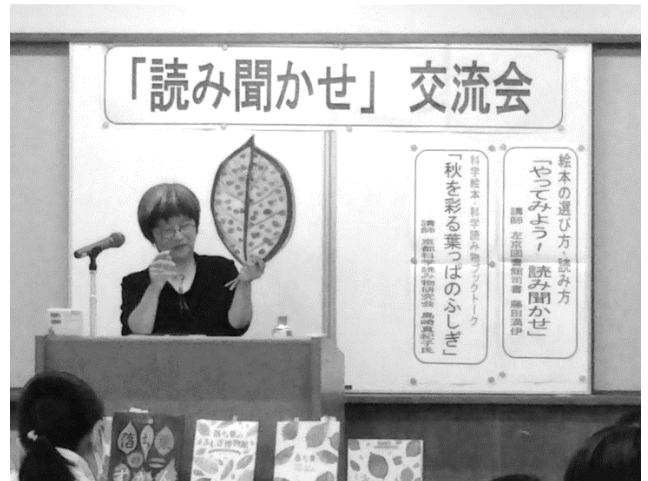
ることを教えてくださいました。

お手製の紙の模型を使っでの光合成や紅葉の仕組みなどの解説はとても分かりやすく、知らなかったことも多かったです。

講演後、演台の周りに並べられた紹介本を多くの参加者が手に取り、改めて興味を持った本を図書館から借りていられる方がいらっしゃいました。

普段はあまり気に留めない落ち葉たち。

講演を聞いた後は急に愛おしい気持ちになって、地面を見つめながらの帰り道となりました。（中原）



ブックトークの様子

## 魔女がいっぱい

ロアルド・ダールコレクション 13

ロアルド・ダール作 評論社 2006年

悪い魔女の魔法によって少年がネズミに変えられてしまい、初めから最後まで、ネズミの姿で200人の魔女に立ち向かうお

話です。しかも彼、ネズミになったことを全く気にしないし、挫けない。何故なら、大好きな祖母は自分がどんな姿になっても愛してくれることを確信しているから。この祖母と孫の愛情が強すぎて、魔女を倒すだけでなく、物語を見たことのないハッピーエンドに導きます。ぜひ、自分の目で確認してください。

（左京図書館 倉本）



### 第3回 小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10月25日

読み聞かせ交流会の第3回は、小学校の読み聞かせボランティアをしている人達が、互いに絵本を読み合う実践交流です。

前半は、17名が3グループに分かれ、学校名、活動歴などの自己紹介、選書の理由を話した後、自分の選んだ絵本を読みました。絵本も選んだ理由も、読み方も様々。話し手は緊張しますが、聞き手は、息をのんだり、笑ったり、きゅんとしたり。絵本を読んでもらう楽しさを存分に味わい、互いに新たな気づきもありました。また、各学校の活動状況もわかり、今後の活動の参考になりました。「選書はどうしているの?」という悩みについても話しあいました。「固定化している」「読み手の自由で、グループLINEで共有」「対面式の選書会で決める」など、学校ごとに様々でした。

後半は、全員が一堂に集まり、各グループが読んだ本の紹介や、話しあった内容の共有をしました。ほっこりするもの、季節に合ったもの、どきっとするもの、心に深くふれるもの、バラエティーに富んだ本が紹介され、次回の読み聞かせの参考になりました。絵や内容に余白がある絵本については「こどもたちが想像する余地がある」「自分なりに考えることができる」という感想がでました。

参加者からは「自分の活動の活力や勉強になった」「参加者の読み聞かせへの情熱に感心した」「この経験を、学校ボランティアのメンバーと共有したい」などの感想を頂き、おなじみの方、初めましての方、経験も学校もいろいろな人が集まる交流会の意義を感じました。(伊藤)

## けやきの活動記録

2023年10月～2024年2月

- 10/6 「読み聞かせ交流会」第1回開催
- 10/13 「読み聞かせ交流会」第2回開催
- 10/25 「読み聞かせ交流会」第3回開催
- 10月～ 講演会企画・準備
- 1/20 おとなのための語りを楽しむ会
- 2/2 ニュースレター70号印刷・発送
- 2/2～ 講演会チラシ配布開始

<事務局会議><図書館とのミーティング> (主に第1金曜日)

10/2(図書館とのミーティングのみ), 11/6, 12/1  
1/12, 2/2

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜日)

10/28, 11/25, 12/23, 1/27

<絵本学習会> (第4金曜日、3,7月は第2金曜日、8月は休み)

10/27, 11/17, 12/8, 1/26

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>

(今年度は毎月第3木曜日 10:30～12:00)

10/19, 11/16, 12/21, 1/18

### 読書バリアフリー

見つけよう！自分にあった読書のカタチ

読書工房編・著 国土社 2023年

この本では、「読書バリアフリー」の考え方と、バリアフリー図書の種類・それぞれの利用の仕方を、平易な言葉とたくさんの図版を使って説明しています。

8つに分類されたバリアフリー図書のひとつが「マンガ」。吹き出しは、耳に障害がある人が会話の様子を想像するのに便利で、絵があるから、外国ルーツの人でも内容を把握しやすいそう。児童書ですが、法令の解説や最新の活動などもたくさん紹介され、大人も学ぶことが多い、バリアフリーな解説書です。(会員 きこ)

## 図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

### であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。  
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

### 「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

### 誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

### ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

### 事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

### 絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

### 講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。活動費の寄付も歓迎。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番  
口座名称 図書館友の会 けやき

◆入会・活動への参加などお問い合わせは下記の事務局へメールで。

◆図書館友の会けやきホームページをぜひご覧ください。  
ニュースレターのバックナンバーも掲載しています。

## けやき情報版

図書館友の会けやき・左京図書館 共催事業  
くさはらかなさん 講演会&原画展  
「絵本『いろいろ おちば』ができるまで」

京都市在住の絵本作家、くさはらかなさんを講師にお迎えして講演会を実施します。あわせて原画展も開催します。

#### ○講演会○

日時 2024年3月2日（土）13:30～15:30

会場 左京合同福祉センター3階会議室（左京図書館上階）

定員 70名 無料

申込不要（当日定員に達した場合お断りすることもあります）

#### ○原画展○

日時 2024年2月28日（水）～3月4日（月）

図書館開館時（最終日のみ17時まで）

会場 左京図書館 絵本コーナー前

お問い合わせ 京都市左京図書館 電話：075-722-4032

図書館友の会けやき メール：info@totomo-keyaki.com

### 赤い羽根共同募金



ニュースレターは赤い羽根共同募金からの助成を受け作成しています。

## 編集後記

娘と、再開した近所の子ども図書館へ。約4年ぶりに中に入ると、変わらぬ書架の配置やスタッフの顔に、懐かしさがこみあげました。小学生だった娘も中学生に。もう借りる本ないかな、と話していましたが、しっかり二人分、貸出上限冊数いっぱいの本を抱えて帰りました。子どもが自分の居場所だと感じられる図書館の存在は大切だと思いました。（澤田）

今号の特集「おすすめの本10冊」。けやき会員やご縁のある方々に執筆をお願いしました。それぞれの方の作品への想いと共に様々なジャンルの本が集まりました。知らなかった本との出会い、わくわくします。暮らしの中の読書体験も披露されて、とても本が身近に感じられました。今号紹介の本はいずれも京都市図書館に蔵書されています。ぜひ手に取ってみてください。（島崎）

◇けやき 第70号 2024年2月2日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部  
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

HP : <http://totomo-keyaki.com>

Mail : [info@totomo-keyaki.com](mailto:info@totomo-keyaki.com)